

議会だより

6月定例会の あらまし

定例会は、6月13日から6月24日までの12日間の会期で開催されました。

固定資産評価審査委員会委員の選任など12議案が提出されました。

◆13日〓本会議 会期の決定。

市長提出議案11件を上程、
即決。

◆21日〓本会議 一般質問。

◆22日〓本会議 一般質問。

◆24日〓本会議

追加議案1件を即決。

正・副議長決まる

5月臨時会において正・副議長が決まりました。

就任ごあいさつ

市民の皆様にご挨拶を申し上げます。

市議会の活動につきましては、日頃より市民の皆様方の深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、令和4年第2回藤岡市議会臨時会におきまして、議員各位のご推挙により、私どもが議長・副議長の要職に就くことになりました。今、改めてその重責と使命の重大さを痛感しているところであります。

新型コロナウイルス感染症により社会環境が激変し、「新しい生活様式」が提唱され始め2年がたちました。社会活動が制限され、日常生活や様々な行事の



副議長
針谷 賢一



議長
窪田 行隆

予定が全く立たず、市民活動にも影響が避けられない状況に直面しております。市民の皆様におかれましては、あらゆる場面でご理解、ご協力をいただいておりますこと深く感謝申し上げます。コロナ終息までにはまだまだ長い道のりとなることが予想されますが、引き続き感染症対策へのご協力をお願いいたします。

二元代表制の二翼を担う市議会は、市長をはじめとする執行機関と真摯な議論を重ね、行政のチェック機能としての役割を果たしながら、意思決定機関としての責務の重さを認識し、より住みやすい豊かな藤岡市実現のため、誠心誠意努めてまいります。なにとぞ、皆様のご指導とご支援をお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

議案等審議結果<5月臨時会>

番号	件名	結果
市長提出議案		
報告第4号	専決処分の承認を求めることについて（藤岡市税条例の一部を改正する条例）	承認（全員）
報告第5号	専決処分の承認を求めることについて（藤岡市都市計画税条例の一部を改正する条例）	承認（全員）
報告第6号	専決処分の承認を求めることについて（藤岡市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）	承認（全員）
報告第7号	専決処分の承認を求めることについて（藤岡市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）	承認（全員）
報告第8号	専決処分の承認を求めることについて（令和3年度藤岡市一般会計補正予算（第12号））	承認（全員）
報告第9号	専決処分の承認を求めることについて（令和3年度藤岡市学校給食センター事業特別会計補正予算（第3号））	承認（全員）
第36号	令和4年度藤岡市一般会計補正予算（第1号）	承認（全員）
選挙、選任		
	議長の選挙	窪田 行隆 当選
	副議長の選挙	針谷 賢一 当選
	教務厚生常任委員会委員長の互選	野口 靖 当選
	教務厚生常任委員会副委員長の互選	丸山 保 当選
	議会運営委員会委員の補欠選任	野口 靖 選任
	議会運営委員会委員長の互選	青木 貴俊 選任

議案等審議結果<6月定例会>

番号	件名	結果
市長提出議案		
報告第10号	令和3年度藤岡市一般会計予算繰越明許費繰越計算書について	報告
報告第11号	令和3年度藤岡市一般会計予算事故繰越し繰越計算書について	報告
報告第12号	令和3年度藤岡市下水道事業会計予算繰越計算書について	報告
第37号	固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意（全員）
第38号	固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意（全員）
第39号	藤岡市職員の育児休業等に関する条例の一部改正について	可決（全員）
第40号	藤岡市民プールの設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決（全員）
第41号	財産の取得について	可決（全員）
第42号	市道路線の廃止について	可決（全員）
第43号	市道路線の認定について	可決（全員）
第44号	令和4年度藤岡市一般会計補正予算（第2号）	可決（全員）
第45号	令和4年度藤岡市一般会計補正予算（第3号）	可決（全員）
選挙		
第3号	多野藤岡医療事務市町村組合議会議員の補欠選挙	窪田 行隆 当選
第4号	多野藤岡広域市町村圏振興整備組合議会議員の補欠選挙	大久保協城 当選
第5号	群馬県後期高齢者医療広域連合議会議員の補欠選挙	窪田 行隆 当選



日野地区活性化

について

丸山 保

問 日野小学校については、児童数が年々減少傾向にあると聞きました。現在の児童数は13人で、児童数が少なくなると、南中学校のように廃校となり、児童を持つ若年層の家庭は、他の地区に移転することも考えられ、結果として過疎化に拍車がかかることになりそうです。日野小学校の今後については、日野地区の重要課題でありますので、統廃合の考え方を含め、日野小学校の今後5年、10年先の見通しについて伺います。

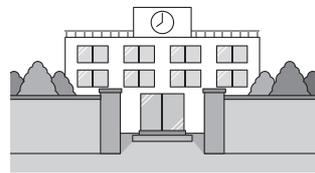
答 日野小学校の児童数は、現在13名、令和5年度は13名、令和10年度は8名となる見込みです。また、今後、毎年1名から2名の児童が入学する予定です。今年度は2年生、3年生と4年生、5年生は複式学級ですが、

国語・算数・生活科・社会・理科は学年ごとにきめ細かな指導を行うことができ、また、本市では小中一貫教育を推進しており、小中9年間を通じて系統的な学習を展開しています。日野小学校においても西連携型小中一貫校として、西中学校区4校が目指す子供像や教科等の重点の共有、9年間を見通したカリキュラムの充実を図り、学びの連続性と生徒指導の継続に基づいた教育活動を行っています。また、平井小学校と連携し、子供同士が学び合う機会を設け、学校規模によらず、同じ学びを保障するなど、社会性の育成に努めています。

さらに、西中学校区という広い地域の中で、子供たちを育てていこうと話し合い、一体的に進めている地域学校協働活動では、保護者や地域の方々、子供に関わる全ての人たちが地域全体で協働して、子供たちを育てることを大切にしていきます。

今後とも地域の方のお力を

借りて、教育活動の充実を図るとともに、地域の方も子供と接することで生きがいを感じていただくなど、地域とともにある学校づくりに進めていきます。



学校給食について

中澤 秀平



問 物価高や新型コロナウイルス感染症による、学校給食への影響について伺います。

答 主食で使用する食材において、令和2年度と仕入れ単価を比較し、現在の給

食提供数で試算したところ、影響額は約638万円です。新型コロナウイルス感染症により児童生徒が欠席した場合は、給食費を日割りで減額しています。

問 今後さらなる物価上昇や児童生徒の欠席によって、歳入が不足した場合の対応を伺います。

答 令和3年度は、児童生徒の欠席等により歳入予算を下回りましたが、不足分は一般会計から繰り入れて対応しました。令和4年度においては、国の地方創生臨時交付金にコロナ禍における原油価格・物価高騰対応分が創設されたことから、今後も学校給食の質や栄養価を落とさないよう事業実施していきます。

福祉医療について

問 子どもの福祉医療費助成制度の状況をお伺いします。

答 助成の対象範囲は出生から中学校卒業までで、本市の令和2年度の子どもの助成額は約1億8,600万円です。

問 令和3年度は、児童生徒の欠席等により歳入予算を下回りましたが、不足分は一般会計から繰り入れて対応しました。令和4年度においては、国の地方創生臨時交付金にコロナ禍における原油価格・物価高騰対応分が創設されたことから、今後も学校給食の質や栄養価を落とさないよう事業実施していきます。

問 高校生世代まで助成を拡大した場合の医療費について伺います。

答 令和2年度の実績を基にした試算額では、入院分は約350万円、外来分は約3,350万円が必要になると見込まれます。

問 学校給食費への助成について、県内の状況を伺います。

答 他市の状況ですが、全額助成実施は2市、第2子や第3子など一部助成実施は7市となり、未実施は本市を含め3市となります。

問 県内他市町村では、助成の範囲を高校生までに引き上げているところもありますが、本市においても検討をしているところですか。





**新井市長の2期目の
施政方針について**

野口 靖

問 台風19号、CSF（豚熱）、新型コロナウイルス感染症などが相次いだ中、新井市長はその全てを冷静かつ迅速に対処し、コロナ対策では県下のモデルとなる政策を打ち出してきました。そんな成果や努力が市民の皆様には伝わったからこそ、40年ぶりの無投票当選につながったものと思いません。2期目の市政運営に取り組む決意を伺います。

答 65連発の尺玉を上げた市制65周年の花火大会。並み居る国宝級を押しつけたH A N I ー1グランプリでの「笑う埴輪」のチャンピオン達成。さらには、花と緑のぐんまづくりin藤岡での3年間にわたる土づくり、水やり、花の管理。このような事業を行う中で、藤岡市の持つポテンシャルの高

さを知り、あるいは市民の皆さんの力をお借りすることによって、行政との距離が縮まり、ふるさと藤岡市に対する愛着や愛郷心が醸成されると考え、やってきました。

今後感謝の気持ちをお忘れず、初心の「明るく元気に、本音で語りながら積極果敢に挑戦を続ける」こうした姿を2期目に当たっても市民の皆さんにお示しをしていく決意です。

問 本市の令和3年度の出生数は300人を切っています。東京へ就職するお子さんも多く、人口減少が進んでいます。後世につながる元氣な藤岡をつくるための本市の更なる発展について伺います。

答 私は、子供たちは世界に羽ばたくべきだと考えており、この藤岡市に留めておこうとは思っていません。しかし、ふるさと藤岡市に住み続けたい、あるいは志をもって羽ばたきたいけれども、改めてふるさと藤岡市に戻り住みたい人たちに對する環境づくりを行いたく、

就任以来、基盤づくりに精力を傾けてきました。

産業団地の造成、地域の60%を占める山林の整備をスタート、田園の大規模化、さらには2つの公立病院による医療体制の強化を行ってきたところであり、事業のスピード、質をさらに高められるよう積極果敢に取り組み、しっかりとした基盤を後世に引き継いでいきます。



降りょう被害について

内田 裕美子

問 6月の降りょうにより、農家や様々な業種でも打撃を受けており、一般家庭でも被害は甚大でした。被害に遭われた皆様にできる限り寄り添い、支援していき

考えを伺います。

答 市民に対しては、窓ガラスの破損等の応急対応用として、ブルーシートをいち早く配付するとともに、災害ごみの受け入れを行いました。農家への支援については、県被災農業者向け復旧支援事業の対象者に対し10分の3の補助、商工業者に対しては、施設を復旧するための借入れに対する利子補給を行うことで支援してまいります。

問 災害時、独居の高齢者は誰にも頼ることができず困っているというケースがありますので、ボランティア団体にも協力してもらい、サポート体制を整えるべきと思いますが、考えを伺います。

答 相談窓口の周知を強化するとともに、関係機関と連携して、高齢者が地域で安心して生活できるよう支援していきたくと考えます。

**子育て支援の充実
について**

問 多胎児の健診は、単胎

児に比べ回数が多く、自己負担が多いのが現状です。通常14回分の健診費用の助成に加え、健診費用をさらにプラスで助成すべきと、かねてより提案していましたが、改めて考えを伺います。

答 県に要望したところ、令和4年度より5回分プラスされることになりました。

問 英語検定は、英語を深く学ぶ機会として大変に有効かと思いますが、受検料が家庭の負担になっていきます。希望する多くの生徒に受検してもらうためにも、受検料の一部を助成すべきと思いますが、考えを伺います。

答 各中学校を準会場として団体申込みを行う場合、教員が試験監督業務や受検事務に当たることにより、本会場で個人受検した場合と比べ、約8割の受検料で受検することができ、助成と同じ効果を上げています。





国民健康保険税

について

湯井 廣志

問 県が示した国民健康保険税の賦課方式には、資産割はありません。本市の資産割の税率を伺います。

答 医療給付費分で24.2%、後期高齢者支援金分で10.8%、介護納付金分で14.1%となっています。

問 国民健康保険税は、税の中では一番高い税と言われています。本市の国民健康保険税には、賦課方式として、所得割、資産割、均等割、平等割があります。この中で資産割が大きなウエイトを占めています。現在、県内35市町村で、資産割を課税しているのは本市を含めて5市町村しかなく、すでに県内の30市町村は廃止しています。

今、市民や自営業者、小規模事業者、年金暮らしの

お年寄りには、新型コロナウイルス感染症や物価上昇で国民健康保険税の支払いに非常に苦労しています。また、県が求めている県内の税率水準統一のためにも、早急に資産割を廃止すべきです。廃止する考えはないか伺います。

答 県の連携会議の協議では、資産割を廃止する方向で進められています。今後十分に検討していきたいと考えています。

保育士の処遇改善

について

問 岸田総理が掲げるエッセンシャルワーカーの処遇改善として、保育士らの収入を3%程度、月額にして9千円、非正規も含めて上乗せする国の補助事業が始まっています。本市では民間の保育園が10園、認定こども園が13園、合計で23園あり、処遇改善としてそれらの施設に9千円の賃金改善のために1年のうち8か月分、約4千7百万円を支出していますが、残り4か月分の支出がされています。

問 2期目の目標と実現のための政策について伺います。



2期目の目標と

政策について

関口 茂樹

問 2期目の目標と実現のための政策について伺います。

答 2期目の市政運営は、令和4年1月改訂の「藤岡市まちづくりビジョン」



ん。1年を通した賃金改善なら、予算が約7千万円必要と思います。残り約2千3百万円の予算を早急に補正し、23園に支出する考えはないか伺います。

答 国の賃金改善のための公定価格の改定に合わせて予算を補正し、1年を通して賃金改善が継続して行われるようにします。

（藤岡市の10年・20年先のまちづくりの指針）に掲げた4つの目標を柱とし、目標実現のための諸施策にしっかりと取り組みます。4つの目標は「住環境整備による住みよさが持続するまちづくり」、「高速交通・拠点性を活かした産業発展のまちづくり」、「豊かな自然資源を活かした環境共生のまちづくり」、「地域を支える人と絆を育むまちづくり」です。これらの目標達成のための主な施策は、「旧公立藤岡総合病院跡地への複合施設の建設」、「交通の要衝を活かした工業団地の建設」、「公民館機能を強化した地域づくりセンターの設置」、「人口減少対策」、「観光農園団地の建設」、「森林資源の有効活用」等です。

過ぎるのではないかと思えます。また、本市の工業団地面積は、全国有数の交通の要衝にしては余り伸びず、現在約129ヘクタールであり、約60年前の同時期に始まった太田市の工業団地面積は797.4ヘクタールで、本市の約6.1倍です。

本市が「全国一」の産業交流拠点都市になる可能性はあるのか、実現の根拠について伺います。

答 本市は、群馬県の玄関口にあり、日本の中央を縦横に結ぶ高速交通網の結節点に位置しており、この優位性を活かして全国一の産業交流拠点の実現を目指します。また、地域の60%を占める森林や清流など、豊かな自然資源にも恵まれており、非常に高いポテンシャルを有する地域だと考えます。



問 藤岡市まちづくりビジョンは、「全国トップクラスの交通の要衝を活かし、全国一の産業交流拠点を実現する」とうたいますが、ビジョン（未来像）とはいえ、県下一なら分かりますが「全国一」は少々荷が重



電力調達の現状

について

橋本 新一

問 市有施設の電力調達の現状について伺います。

答 高圧受電の電力自由化が開始されたことにより、電気料金をできるだけ安く調達し経費削減を図ることを目的として、高圧受電50キロワット以上の契約をしている市役所庁舎や小中学校などの27施設において、特定規模電気事業者での入札を執行し、平成26年12月から電力調達を開始し、現在も30施設において継続して電力調達を行っています。

このほか、低圧受電の契約となる規模の小さい地区公民館などの施設については、それぞれ個別に電力調達を行っています。また、そのほかに清掃センターでは令和元年10月から、浄水課では令和3年3月からそれぞれ特定規模電気事業者

での入札を執行し、電力調達を行っています。

なお、一般会計全体で支出している令和3年度の電気料金は、総額で約1億5,500万円になっています。

問 停電時及び電力不足時の対応について伺います。

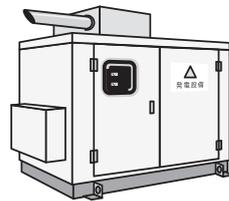
答 市民生活に関係する主な施設の対応ですが、まず、本庁舎については非常時における住民窓口業務を継続するため、住民情報システムサーバー及びネットワーク機器類と市民窓口用パソコン5台を1日8時間の運用で3日間使用できる非常用自家発電設備を設置しています。

次に、防災センター庁舎では、庁舎内の各分電盤に低圧電力を停電後連続発電時間で3日間供給できる非常用発電設備を設置しています。

次に、浄水課では中央浄水場、東部浄水場、北部浄水場、上の山浄水場などの施設に、主に配水池から12時間以上の給水が対応可能な貯水量を確保するための非常用発電設備を設置し、

停電時などに断水にならないよう備えています。

次に、鬼石病院では、患者に装着している重要な医療機器や薬剤を保存する冷蔵庫などで電源が切れないよう、6時間動作できる非常用自家発電設備を設置し、非常時に備えています。



人口減少対策について

茂木 光雄

問 工場誘致後の地元雇用の現状について伺います。

答 令和元年度、51社の新規採用者は164名、うち藤岡市民72名。令和2年度は188名、うち藤岡市民76名。令和3年度は156

名、うち藤岡市民75名です。

本市では、事業者が事業所を新設し、従業員として市民を新規に雇用した場合、1人につき10万円を交付する雇用促進奨励金事業を実施しており、令和元年度は1社2名分20万円、令和2年度は該当なし、令和3年度は3社16名分160万円を支出しています。この事業は企業から好評をいただいております。今後とも企業誘致を進め、雇用の促進を図っていきたくと考えています。

答 過去3年間の新規就業者数は、令和元年度2名、令和2年度8名、令和3年度5名となっています。新規就業者に対する支援として、就農初期段階に係る必要経費に対する経営開始資金の補助と県や農協などの関係機関で技術支援を行っています。

問 移住者の受け入れ施策について伺います。

答 移住支援金事業を令和元年度から実施しており、東京圏からの移住者に対し、単身で60万円、世帯で100万円の支給を行っています。令和3年度の実績は0件でありましたが、令和4年度に入り3件の相談がありました。市として道の駅移住相談会や、オーダーメイド型移住体験ツアー、鬼石地域での古民家移住体験事業を実施し、移住促進を図っていきます。

問 新規就農者の対応について伺います。

工場誘致後の地元雇用の現状について伺います。



この議会だよりに掲載してある一般質問は、要約してあります。
詳しくは、藤岡市のホームページや市役所相談室、図書館で会議録（8月下旬公開予定）をご覧ください。

《 藤岡市議会ホームページ <https://www.city.fujioka.gunma.jp/shiseijoho/shigikai/> 》

議会中継をご覧ください

藤岡市議会では、市民に開かれた議会を目指し、インターネットによる録画配信を行っています。

藤岡市議会のホームページから、議会中継を見ることができます。現在、インターネットで配信されている映像は、今号掲載分までの一般質問の様子です。

ぜひ、ご覧ください。

藤岡市議会 議会中継・会議録検索システム
藤岡市議会 本会議録画配信

会議名: 令和 4年第 3回定例会(本会議)
会議日: 令和4年6月21日 10:00
日程:
一般質問
録画内容:
令和 4年第 3回定例会
令和4年6月21日(本会議)
6月21日

議会中継
本会議録画配信
をクリック!

録画配信画面です
画面を大きくすることもできます

ここをクリック

ふじおかほっとメールから議会の情報を発信します!

会議の日程などに関する情報を配信しています。ぜひご活用いただき、議会の傍聴にお越しくください。

●登録を始める前に

ご使用になる携帯電話で迷惑メール対策をされている場合は、次の2点についてご確認/設定をお願いいたします。

- ・「city.fujioka.gunma.jp」ドメインからのメール受信を許可する設定にしてください。
- ・URL付きメールの受信を許可する設定にしてください。

●登録はこちら

- ・パソコンで登録→ <https://service.sugumail.com/fujioka/member/>から
- ・スマホなどで登録→ 右QRコードから



市議会を傍聴しませんか？

議会は、3・6・9・12月の定例会と随時に開催する臨時会があります。

◎本会議の傍聴

本会議は、一般の方に公開されており、いつでも傍聴することができます。事前の予約は必要ありません。

傍聴を希望する本会議の当日に、傍聴人受付（市役所2階議会事務局前）で、受付簿に住所、氏名、健康チェック表等の記入をし、検温・手指消毒をしてから入場します。マスクの着用もお願いします。（※感染予防及び拡大防止のため、人数制限をしています。）

傍聴される方に議案集の貸し出しも行っています。

◎委員会の傍聴

委員会も本会議と同様の手続きで傍聴することができます。

傍聴を希望する委員会当日に議会事務局までお越しください。

日程については、市議会事務局にお問い合わせください。

また、藤岡市ホームページの「藤岡市議会」→「本会議・委員会」→「会議のお知らせ」にも開催予定日を掲載しています。

■9月定例会(予定)

※議事の都合により変更となる場合があります。

月 日	時 間	適 用
8月31日(水)	10:00	本 会 議
9月 1日(木)	10:00	本 会 議
9月 2日(金)	10:00	常任委員会
9月 5日(月)	10:00	常任委員会
9月 8日(木)	10:00	一 般 質 問
9月 9日(金)	10:00	一 般 質 問
9月13日(火)	10:00	決算特別委員会
9月14日(水)	10:00	決算特別委員会
9月16日(金)	10:00	本 会 議

問い合わせ ▶ 市議会事務局 ☎40-2377

●●● 市民の皆さんのご意見をお待ちしています ●●●

藤岡市議会では、市民の皆さんが議会をより身近に感じられる議会だよりを目指し、日々取り組んでおります。

今後、さらに市民の皆さんの声を紙面づくりに反映していくため、本紙をお読みになったご感想・ご意見等をお寄せください。

◇ 宛 先 ◇
藤岡市議会事務局

〒375-8601 藤岡市中栗須327番地 TEL 0274 (40) 2377 FAX 0274 (22) 5829
Email gikai@city.fujioka.gunma.jp

編集後記

6月2日の夕方、藤岡、神流、小野、美土里地区を中心とした地域に最大でゴルフボール大のひょうが降りました。この降ひょうにより被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げます。

6月定例会の一般質問は8名の議員が行い、降ひょう被害等の質問も含む活発な議論が行なわれました。

議会だより編集委員会も新たなメンバーとなり、皆様に親しまれる紙面づくりを目指してまいりますので、よろしくお願いたします。

議会だより編集委員会

委員長 青木 俊

委員 中澤 秀平

委員 野口 靖

委員 橋本 新

委員 岩崎 和

委員 茂木 一

委員 隅田 達哉